



こ  
ん  
な  
寫  
眞  
に  
戀  
を  
す  
る

**PlanarT\*FE50mm F1.4ZA**

価格20万5200円

顔検出の正確さにはシャッターを脱ぎたくなる速度とフォーカス精度。正直、あたくしが「ええと、ピント位置はヒトミのこっち側に……」とモタモタしてる間にα9に任せておけば100枚くらい撮れます。それも正確無比にです。そして柔らかな表現力の中に芯のあるピントがスゲーなど何枚撮っても感心してしまうPlanarT\*FE50mm F1.4ZA。高性能で高級なレンズってのはこういう描写なのか！と改めて実感。



シャッター速度●1/160秒  
絞り●f 1.8  
撮影感度●ISO400  
顔検出●On



こ  
ん  
な  
寫  
眞  
に  
戀  
を  
す  
る

**PlanarT\*FE50mm F1.4ZA**

価格20万5200円

20コマ/秒の連写速度に胸をドキメカすのも良いでしょう。でもね、やっぱりカメラつうのは狙い澄ました1カットの味わい一つのも大事だと思うんですよ……。と、約2420万画素の画質を手ブレから守るシャッター速度約5段ぶんのボディ内手ブレ補正に約369万画素の120フレームレートのトゥルーファインダーを楽しみながら大人の余裕を持った撮影もα9の楽しみかた。



シャッター速度●1/6400秒  
絞り●f 4.5  
撮影感度●ISO800  
撮影モード●おまかせオート(風景)

デ  
ン  
シ  
シ  
ヤ  
シ  
ン  
キ  
レ  
ン  
ア  
イ  
**電子寫眞機戀愛**  
ついにココまでやってきた!  
フルサイズ最強ミラーレスα9  
第五夜



写真と文 織本知之  
3台にわたり長く乗ったジムニーからドイツのちっちゃな丸いクルマに乗り換えましてもう3年。ひさしぶりにゴリゴリのオフロード四駆たるジムニーを取材したのですがやっぱりイッすな。ジムニーは、本誌シムニー特集もぜひご堪能ください。

フルサイズミラーレスカメラα7から始まったソニーの快進撃もとうとうココまでやってきてしまったか……というのがこのカメラのスペックを見たときの率直な感想であります。

α9に搭載された世界初のメモリー内蔵フルサイズ積層型イメージセンサーは記録画素部分と処理回路部分の階層を分けて、従来に比べ処理速度の大幅なスピードアップと優れた集光効率を実現した最新最強のイメージセンサー。そして最高速度1/32000秒のアンチディストーションシャッターの採用。これらの組み合わせによる20コマ/秒の超高速撮影能力は「もしかしたら最強カメラなんじゃね？」と発表時にカメラマンの誰もが感じた高スペック。そしてココまで「ん？ なんのこっちゃサッパリ解らん？」とカメラマン以外の誰もが感じる難解説。

そうなんです、このα9は見た目としてはこれまでのα7シリーズに似てはいますが中身は別モノ。世界中のプロカメラマンが最前線で愛用するキヤノンやニコンのプロフェッショナル用最高峰横綱級デジタル一眼と比肩する性能をもったデジタルカメラなのでございます。たしかにパッと見た感じは小柄でまとまった感じの馴染やすいサイズと親しみの持てるスタイルなのですが、その撮影性能は強力無比連写無双のスゴイ奴。当代きってのプロスペックを誇っておるのでございます。

先に述べましたように最新センサーと電子シャッター、画面内693点の位相差AFセンサーで恐ろしいほどのフォーカス追従連写が可能になったα9。これまで高級フラッグシップ一眼レフの独壇場であったスポーツ報道の分野でも、このα9はとんでもない威力を発揮するのではないかと、発売前から業界ではそう予想されておりました。確かにブラックアウトしない電子ビューファインダーとフォーカス追従連写20コマ/秒はミラーレス一眼界の奇跡と言っても過言ではありません。

発売と同時に周囲から「過去最高と言われたα7 IIを上回る仕上がり」「100年に一度の出来栄え」「エレガントで上質な味わいと撮り心地」との声もちらほら聞こえ、ヨソのカメラメーカーもうかうかしてられないどころか、大きく引き離されてしまったのではないかと、そういった危惧を持った声もございました。実際のところどうなのでありましょか？ 今回は

わたくしオリモトが陰険で保守的な性格、かつ一眼レフ至上主義でオールドカメラ偏愛なゆがんだバイアスをもってカメラメーカーとしては後発のSonyが発表した、この最新型ミラーレスカメラを斜に構えてから解説いたしましょう。

まず、プロ機として過酷な環境に耐えるよう防塵防滴が施された高剛性のマグネシウムボディはわずか約588gなのです。他メーカーのフラッグシップモデルに比べ1/3ほどしかないのに肩にストラップが食い込む充実感に乏しいですね。望遠レンズを付けた大型一眼レフを一日肩から提げるとの取材を終えてシャワーを浴びるときの紫になったストラップ跡が見えなくなるのは寂しい限りです。

またシャッター耐久性は約50万回だそうでもまったく壊れそうもありません。たまには壊れないとサービスセンターで機材チェックできませんね。わたしはあの各カメラメーカーの懇勤なサービスセンターの雰囲気が好きなので機会を失うのは悲しいことでもあります。そして非情なまでの処理速度で行うAF/AE追従の約20コマ/秒の連続撮影機能。RAWで約241枚、JPEGで約362枚のバッファを備えておりますのでチャンス前からしばらく20コマ/秒でシャッターを押し続けても平気でいられる感覚です。たぶん安物のハードディスクだとパンクしますね。

まあ、軽く頑丈で、撮影レスポンスが最高に良いという優良カメラということはわかりましたが、レンズのほうはいかがでしょう？ ボディばかりに注力していてもバランスの良いレンズなくては傑作は撮れません。今日は一眼レフの基本中の基本、標準レンズをもってα9の実写性能を確かめてみようと思います。

用意いたしましたのは「PlanarT\*FE50mm F1.4ZA」。50ミリの標準レンズつつうことは軽快で気のおけないコンパクトなレンズですね……とイメージするかもしれませんがこれは違います。隅までみっちり上質なガラスが詰まったカールツァイスブランドのこのレンズお値段19万円+税というプライスと堂々の質量778gが撮影者の気合と力量を必要といたします。その代りといっはなんですが、ボケ味写り色のノリ、ピントのシャープさエッジのキレと画質においてまったく不満がございません。この比類なき高性能ボディと組み合わせることでこれほど頼りになるレンズはそうはありませんぞな。否、プラナー。さあ、みなさんもぜひIt'a α9。



ソニー  
α9



35ミリフルサイズ相当有効2420万画素CMOSセンサー  
センサーシフト式5軸手振れ補正  
ISO100~51200  
防塵防滴設計  
4Dフォーカス  
ボディ幅約126.9×高さ95.6×厚み60mm  
本体質量約588グラム  
価格オープン(ボディ実勢54万円前後)  
©ソニー 0120-777-886



ツァイスに首ったけ



EDガラスの高度非球面AAレンズや非球面レンズで球面収差や像面湾曲を補正し、リングドライブSSMで高精度なピント合わせを静かにそして高速で行い、スイッチの切り替えで絞りのクリック感のON/OFFができる高級レンズ。防塵防滴にも配慮したというタフな造りと高品位な外観が撮ってよし、眺めてみてまたよし。

ここが好きだよα9



これまでのミラーレスαではサラッとしていた軍艦部左側の肩部分にドライブモードダイヤル、フォーカスモードダイヤルが装備されて一気にカッコよく(俺比)なったα9シルエット。フルサイズのセンサーを持ったデジタルカメラとしてはえらくコンパクトなα9だが、このシルエットが只者では無い感があったステキ。あくまで好み。だがそれが一番大事(俺比)。



2017俺的デザイン & アート充電器 アワード受賞

あんがいが大事にされない充電器。α9はそんな充電器にも手を一切抜きません。点滅→早い点滅→完了なんて味気ない表示が多い中、α9同梱充電器は充電レベルをわかりやすいビジュアルで三段階表示。ちゃんと充電してるのか、それともエラー点滅なのか半別しにくいピカピカ充電器よりだんぜんコッチがココロ優しく平穩。